

岩手県金融経済概況（平成 30 年 2 月）

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準で推移する一方、住宅投資は高水準ながらも減少傾向を辿っている。設備投資は増加傾向を維持している。

生産は、緩やかに持ち直している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、13 ヶ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；平成 30 年 1 月）は 4 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△10.2%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；平成 30 年 1 月）は、2 ヶ月振りに前年を下回った（前年比△0.2%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；平成 30 年 2 月）は、6 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△5.7%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（平成 30 年 2 月）は、3 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△11.5%）。

新設住宅着工戸数（平成 30 年 1 月）は、持家、貸家および分譲がいずれも

増加したことから3ヵ月連続で前年を上回った（前年比+37.4%）。

—— 持家（前年比+36.9%）が3ヵ月連続で前年を上回ったほか、分譲（同+36.4%）も一戸建の増加を主因に4ヵ月連続で前年を上回った。貸家（同+34.4%）も前年を上回った。

民間設備投資（短観ベース；平成29年度計画）は、前年を上回る計画（前年比+3.1%）となっている。

—— 非製造業が前年比1割方増となった前年を下回る計画としている一方、製造業では、電気機械の一部で競争激化による新製品対応投資の見直しを行う先がみられたものの、前年比1割方増の計画を維持しており、全産業では前年を上回る計画を維持。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（平成30年1月）は、2ヵ月振りに前年を下回った（前年比△2.8%）。

3. 生産動向

生産は、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；平成29年12月）は、3ヵ月振りに前月を下回った（前月比△3.4%）。

—— 12月の動向を主要業種別にみると、生産用機械、その他製品、窯業・土石製品が上昇し、食料品、電気機械、パルプ・紙・紙加工品が低下した。

なお、四半期の動きをみると、29/7～9月は4期振りに前期比減となった後、29/10～12月は2期振りに前期比増となった（29/1～3月：前期比+2.4%、4～6月：同+2.7%、7～9月：同△3.8%、10～12月：同+3.1%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；平成30年1月）は、1.46倍と高水準を維持（平成25年5月以降57ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；平成30年1月）は、前年を上回った（前年比+1.4%；平成24年3月以降71ヵ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；平成29年12月）は、常用雇用指数（前年比

+0.1%)、名目賃金指数(同+0.3%)ともに前年を上回ったことから、2ヵ月連続で前年を上回った(同+0.4%)。

5. 物価

消費者物価指数(除く生鮮食品;平成30年1月)は、光熱・水道等の上昇等を主因に13ヵ月連続で前年を上回った(前年比+1.2%)。

6. 企業倒産

企業倒産(平成30年2月)は、2件、982百万円(前年同月;1件、67百万円)と落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出(平成30年1月)はともに前年を上回った。貸出約定平均金利は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先:

日本銀行盛岡事務所 TEL: 019-624-3622 (代) <http://www3.boj.or.jp/morioka/>